

高知大学医学部医学科同窓会会報

やまもも

高知大学医学部医学科同窓会

会長 廣瀬 大祐

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

TEL/FAX:088(866)0034

dosokai.j@kochi-u.ac.jp

http://www.kochi-ms.jp

第23号

目次

《会長ご挨拶》		
医学部振興基金への協力のお願いと医師募集	廣瀬 大祐	2
《総会開催のご案内》		
.....		3
《会員から》		
厚生年金高知リハビリテーション病院の院長になって	山田 光俊	4
釣り師からみた医療	奥谷 陽一	5
.....	伊与木増喜	6
臨床以外の道を歩んで	高橋 聖一	7
.....	高崎 元宏	8
人はいくつになっても成長する	大黒 隆司	9
.....	田中 肇	10
病院紹介 高知で産婦人科医しませんか?	林 和俊	11
これまでを振り返って	川村 貴範	12
旅芸人生活	北村 ゆり	13
.....	今井 稔也	14
近況報告	中澤 宏之	15
《第4回同窓会研究助成金による研究報告》		
嫌色素細胞性腎癌・オンコサイトーマ様亜型の同定	黒田 直人	16
《事務局から》		
.....		17

《会長ごあいさつ》

医学部振興基金への協力のお願いと医師募集

同窓会会長 廣瀬 大祐

今年は“やまもも”“おこうだより”に加え“同窓会名簿”が加わり3冊とボリュームが多くなりました。

“おこうだより”にも書きましたが、平成25年で高知医科大学から数え通算30期3000人余りの卒業生、同窓生がいます。しかし、今回この3冊を送ることができたのは約2000人です。残りの約1000人の連絡先を同窓会事務局として把握できていません。友人、知人で“やまもも”が届いていない方がいらっしゃれば事務局までメールでお知らせください。

今回は、高知県内で活躍されている先生を中心に原稿を依頼し、昨年と同じ12人から原稿をいただきました。若い先生には卒後20年～30年目の仕事を、また大学以外の高知県内の状況を少しでも感じてもらえればと考えます。

「医師募集」この言葉が今の状況です。高知県内では40歳以下の医師が急速に減っています。人口10万人あたりの医師数はいまだに全国10位以内ですが、療養病床に医師が多く配置され、勤務のみならず開業医も高齢化が進み、特定の診療科、準拠点病院から医師が減少しています。県外で活躍中の同窓生、初期研修を県外で送った同窓生、ぜひ高知に帰ってきてください。

皆さんを待っています。同窓会までご連絡をいただければ相談に乗ります。

最後に、同封してあります医学部振興基金です。会館設立を目指してスピード感を持って取り組んでいますが、同窓生からの寄附が盛り上がりません。昨年末から始まり2月末の時点で2000万円強集まっています3億円が目標です。勤務医の方は所得税控除に、開業医の先生は法人税などの控除がありますので何口でも、基金への協力をよろしくお願い申し上げます。

《総会開催のご案内》

平成25年高知大学医学部医学科同窓会
総会・講演会および懇親会のご案内

日 時 平成25年7月27日(土) 午後5時30分～

場 所 ホテル日航高知旭ロイヤル

(高知市九反田9-15 TEL 088-885-5111)

参加費 5,000円

式次第

総 会 : 午後5時30分

議題1 事業報告 平成24年度決算

議題2 事業計画 平成25年度予算案

その他

講演会 : 午後6時30分

懇親会 : 午後7時30分

《会員から》

厚生年金高知リハビリテーション病院の院長になって

厚生年金高知リハビリテーション病院内科

高知医科大学第 1 期（昭和 59 年）卒 山田 光俊

阪神大震災の翌年 1996 年に内科部長として就任してからはや 16 年たち、副院長を経て桑原和則前院長の後任として 2012 年 4 月に院長に就任しました。高知医大を一期生で卒業し、いつでも若い気持ちで老年病学教室での研修医を始めた頃の思い出は忘れられません。

さて最初に、当院の紹介をさせてください。高知市の西の朝倉・神田の土佐道路の南の地区にあります。昨年公開された洪水マップでは、津波被害が免れるエリアで、新しくはない病院の建物も昨年 6 月から平成 25 年 2 月まで耐震工事を行っておりこの会誌が発行されるときには終了し安全な病院になっていると思います。

診療の三本柱は、リハビリテーション、透析、健診業務であります。もちろん通常の診療科、内科、外科、整形外科、泌尿器科（現在は週一回高知大学より派遣）もあり、日々多数の患者さんの診療も行っています。病院の特性から、急性期の先進医療はできませんが、一般外科は、消化器外科および、乳がんの専門医による診療を、整形外科は、膝、股関節の人工関節においては県内でも高い評価を得ています。内科は、循環器疾患の早期発見はもちろん、生活習慣病から動脈硬化疾患に進展しないような予防や、回復期リハビリの後の ADL 維持・再発予防のためのメンテナンス外来を行っています。

月日のたつのは早いもので、鏡に映る自分の姿に、経年変化：加齢が忍び寄ってきています。患者さんの気持ちがよくわかる年齢で良いこともあります。自分だけでなく医局の Drs. にも年齢の変化が起きています。急性期の病院ではないので、長く働けて、患者さんと一緒に生活を考えていける病院です。同窓会誌なので若い Dr も多くご覧になっていると思いますので、同門の院長と高知市内の病院で少しでも働きたいと思われる方がいらっしゃればぜひ連絡をしてください (k-nenkinriha@alpha.ocn.ne.jp, 088-843-1501)。

最後に当院は 2014 年（平成 26 年）4 月から、地域医療推進機構のもとで組織改変される予定で目下準備中であります。

大学の教室も卒業生も多く活躍されつつあり頼もしく思っている反面、若い人たちとのジェネレーションギャップも感じておりますが、同窓のよしみでよろしくお願いします。

山田 光俊 yamadam_jmac@mac.com

《会員から》

釣り師からみた医療

奥谷整形外科

高知医科大学第 1 期 (昭和 59 年) 卒 奥谷 陽一

初めに、卒業生の皆さんお元気でしょうか。今年は、14 日から左上肢の神経痛になり左手指がしびれた状態で、この原稿を書いています。痛い。年には、勝てない。

昭和 59 年に医師免許取得後、約 30 年。平成 8 年 7 月 4 日に開業して、約 18 年になります。釣は、小学生の頃、川でイダをつったくらいで、その後は、全くしたことがなかった。が、昭和 62 年ごろ某病院の N 先生に、須崎の能見湾でグレ釣りにつれて行ってもらってからは、はまってしまった。その時の釣果は、42cm のグレであった。その後、石鯛つりの M さんに石鯛釣りを教えてもらい、今は、冬はグレ、夏は石鯛を狙っている。その後、平成 3 年から、今は、無くなった宿毛病院に勤務することになり、整形外科医か釣り師か、判らない生活をしてきたかも知れない。宿毛病院で知り合った患者さんの息子さんたちが、漁師さんであり、平成 8 年ごろからは、船の上からカンパチ・クエ e t c も狙いだした。釣をしまして 26 年の釣果は、グレ 52cm・石鯛 64cm・クエ 27kg・カンパチ 15kg (添付写真; 平成 24 年 2 月 5 日) etc などである。今後の目標は、グレの 60cm オーバーである。何時釣れるかは、不明、実行不可能ではとも思っている。大きいグレを釣りたいければ、いい場所に平日にいかないといかず、日曜日しか自由がない開業医には、悲しい限りである。引退したい。

で、最後に釣り師から見た医療であるが、

- ①患者さんを、“〇〇様”なんて呼んでいるところがあるが、患者さんは偉いのか？
- ②年々医療費は、あがっているようで下がっている。財源がないならどうするか。患者さんに負担をお願いするしかないであろう。国民すべて 3 割負担。受付で請求するにも非常に楽である。
- ③勤務医時代は、再診料・手術料・材料費、などいくらなのか知らなかった。が、開業すると薬の値段まで気になる。新薬を使いすぎると医療費が増大し、医療費の増加、ひいては、診療報酬の圧縮にも、つながるのでは？
などの不満ありきである。

では、皆さまごきげんよう。



《会員から》

伊与木クリニック

高知医科大学第2期（昭和60年）卒 伊与木 増喜

突然、忘年会の席で同窓会会長の廣瀬先生から“やまもも”の原稿を仰せ賜りました。筆不精な私ですが、会長からの直々の御命令ですので一筆書かせて頂きました。

私は高知大第一外科でお世話になり、平成12年土佐市で診療所を開設しました。もともとプライマリケアを行いたいと思っており、時期的に介護保険や在宅医療の流れもあり比較的スムーズに地域医療に関わることができました。現在外来診療と訪問診療を行っていますが、年々業務が多くなり忙しい日々を送っています。この原因には地域での高齢者の増加と医師不足が考えられます。すでに高知県全体での医療の偏在化はいろいろな形で問題提起されていますが、各地域での温度差はあるようです。

私は約8年前から高知市医師会（土佐市は高知市医師会に所属）の委員や理事として医師会活動に参加させて頂き、最近では県医師会と少し関わりもあります。以前は医師会に対してある種の偏見を持っていましたが、実際に関わってみると随分と違うものだと思います。役員の各先生方は、地域や行政への働きかけを非常に熱心で前向きに取り組んでいます。業務量・情報量は多く、本来の自らの医療活動にも影響します。しかしその努力や業績への評価は芳しくありません。これに対して私心ながら、地元である高知大学出身の先生方の医師会活動への積極的参加を望みます。

現在高知大学で先生方は診療・研究・教育等多岐に渡りご活躍され、業績を日本や世界に発信し多忙な日々を送られていると思います。やはり高知県の医療の中核は高知大学であるべきで、各拠点病院を統括できれば、先ほどの医療の偏在化等の諸問題も解決できるのではないかと思います。無論簡単な話ではありませんが、高知大学出身の先生方が大学や各医療機関で増々活躍され、また医師会への参加と行政への提言等を行えば道は開けると思います。

《会員から》

臨床以外の道を歩んで

高知県総合保健協会

高知医科大学第2期（昭和60年）卒 高橋 聖一

思い起こせば、学生3年時、指導教官（生物）に「何かやらせて」と言った事からミトコンドリアでもやれとなり、サッカー練習後実験を深夜まで。臨床講義が始まると老年科にも出入りし心電図を叩き込まれ、またポリクリ前試験に合わせて米国医師免許の登竜門 ECFMG 受験（医学部門合格）。5年時、3内に当時めずらしいDNAを扱う先生が米国から赴任したので師事しEBウイルスDNAに熱中。卒後、免疫学へ。研究歴は免疫10年、残り6年第一生理。唯一世界レベルで役立った仕事が前シナプス蛋白 complexin I, IIの発見で、論文発表後（Science, Cell たまに引用）、英Cambridge大学、カロリンスカ研究所（ノーベル脳研）、カナダBritishColumbia大（UBC）等からモノクローナル抗体依頼があり、また三菱生命研、UBC、本学精神科と共同研究。Complexin II 欠損マウス（本学初の遺伝子改変動物）は現在東大、本学などで使用。40歳から高知県総合保健協会に転職し、一般健診、乳がん検診（AS認定）に従事。以下余談。健診は県下を回るため様々な人に会う。特におばちゃんは独自。”レントゲン、心電図をかける”と表現する。電気をかけると同じ。手首の小結節をガングリゴンと言う。耳を疑ったが、センスいい響きに。また「オビチョウ」という病名にはやられた。ヘルペスの方言らしいので、「それオビチョウですよ、大変」などと使った。数年後、ハッと気が付く。”帯状疱疹”を”おびじょう〜”と。オバハンならやりかねん。まだまだ上級者も。先日、動悸がありますね？と尋ねると、”ドキっとします”（まあえいか）他には？”イキ”息がどうかしましたか？”生霊がついちゅう”。まいる。この辺で終わります。

《会員から》

たかさきクリニック胃腸科内科
高知医科大学第3期（昭和61年）卒 高崎 元宏



高知医大3期生の高崎元宏です。

私は、昭和32年高知市生まれで、51年に土佐高校を卒業しました。53年に早稲田大学(理工)に入学しましたが、医師になりたいという思いが捨てられず、55年に高知医大を受験し、合格することができました。

大学時代は軽音・ヨット部のクラブ活動に熱中し、勉強はした記憶がないのですが、運良く留年もせず61年に卒業しました。60年にヨット部主将として始めて西医体(広島)に参加したことが思い出です。当時の部長は免疫学教室の藤本重義教授、監督は故斎藤英郎助教授でした。

卒後は、血液内科医を志し、第三内科(三好勇夫教授)に入局しましたが、2年目にローテーションした高知県立中央病院消化器科で内視鏡の世界を知りました。当時の副院長故内多嘉具先生に、内視鏡に興味があることをお話していましたが、宿毛病院にローテーション中の昭和63年に、中央病院の常勤医にするので帰って来いと電話をいただきました。

そのまま中央病院に就職した形になり、医局も岡山大学第二内科に移動しました。内多先生は63年に惜しくも逝去され、その後は故依光幸夫・横田哲夫両先生に教えを受けました。平成9年に岡山大学で博士号を取得した後、平成12年に、たかさきクリニック胃腸科・内科を開業しました。

長男が母校の4年生ですので、さすがに自分もかなり年を感じるようになり、次の世代の医師のステップアップのお手伝いできればという気持ちが強くなっています。地域医療に貢献することはもちろんですが、高知大生の実習にも積極的に協力して行きたいと思っており、平成20年からは1・5年生が実習に来てくれています。

3期生は一番若くても50歳を超えました。昨年には、高知市に10人の卒業生が集まり、ミニ同窓会を開くことができましたが、今年は3期生全員に声を掛けて同窓会を開こうと思っており、全国の仲間とFacebookで連絡を取り合っています。

末筆ながら、これからも高知大医学部がますます繁栄することをお祈りしています。

《会員から》

人はいくつになっても成長する

高知赤十字病院健診部

高知医科大学第4期（昭和62年）卒 大黒 隆司

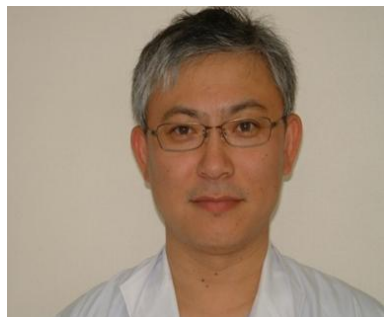
高知大学医学部同窓会員の皆様、4期生の大黒と申します。現在高知赤十字病院健診部長として人間ドックや上部・下部消化管検査などの仕事をしております。ドラマチックな業務内容ではなくたいした趣味ありませんが、実は2年前からあるバンドの追っかけをしております。

バンドといってもゴールデンボンバー（最近カラオケでは女々しくてばかり歌っております）のような一流バンドではなく、私の高校の同級生2人と二回り年下のイケメン後輩とで活動しているアマチュアバンドです。追っかけの内容は月1回くらいのライブハウスでの演奏を聴き、その後彼らと他の追っかけメンバー（ほとんど高校の同級生男女）とで飲み会をするというお気楽な集まりです。初めのうちはライブは飲みに行く口実で、正直熱心に聴いていたわけでもありませんでしたが、1年くらい前に後輩（ギター&ボーカル）がメンバーに入った時からバンドの演奏レベルが明らかに進歩しました。もちろん後輩の卓越したテクニックのおかげもありますが、同級生2人（ギター&ボーカル、パーカッション&ボーカル）の実力がみるみるうちに上昇してきました。ついには「こうちのたから音楽祭（高知のアマチュアバンドにとって一つの大きな目標）」の予選会を突破し、本年5月にオレンジホールで行われる本選出場を果たしたのです。よいお手本（演奏技術に優れた後輩）と熱意（仕事の合間を縫っての定期的なバンド練習）があれば50歳過ぎても人間成長できるのだということを目の当たりにし、ここ1-2年停滞気味であった私にとって大きな励みになりました。この年（51歳）で楽器に挑戦するのは厳しいですが（昨年からギター教室に通い始めた同級生がおり驚嘆しています）、努力すればいくつになっても医師として成長できるのだという信念を持って日々の診療にあたりたいと思います（カラオケももう少しうまくなるかもしれませんが）。

《会員から》

土佐市立土佐市民病院

高知医科大学第5期（昭和63年）卒 田中 肇



同窓会報“やまもも”ご愛読の皆様こんにちは。昭和63年卒医学部5期生の田中です。

私は現在、土佐市民病院で消化器専門医として診療に携わると同時に、平成24年4月から同病院病院長に就任いたしました。前院長森 一水先生の理念であった「地域に根ざした病院、患者さん中心の病院」を引き続き継承するよう奮闘している毎日です。この度、廣瀬会長からの依頼をお受けし、寄稿させていただくことになりました。せっかくの機会ですので当病院の紹介をさせていただきたいと思っております。

土佐市民病院は、これまでに機能評価 ver.5 を取得し、市民が安心できる良質な医療を提供して参りました。平成20年の改築の際には、南海地震で想定される震度にも十分耐えうる免震構造を採用し、地域の災害拠点病院としての役割も担うよう目指しております。また、平成24年には開院60周年という節目の年を迎えました。「まごころ」を私たちは基本理念として謳っております。患者さんにやすらぎを感じていただくために、医療機器の充実、医療スタッフの増員なども取り組んでおります。その中の一環として、女性医師支援制度を数年前から設けました。短縮勤務、託児施設の併設など、出産後も子育てをしながら継続して勤務できる環境を整えております。現在、すでに数名がこの制度を利用し、勤務しております。女性医師の就業支援は女性だけではなく、男性を含めた医師全体が働きやすい職場につながります。これを第一歩として、今後医療スタッフ全体のワークライフバランス（仕事と生活の無理のない両立）の推進に取り組み、働きやすい職場づくりを行い、医療スタッフの定着を図ることで医療の質を確保し、良質な医療を提供し続けたいと考えています。

最後になりますが、このような機会を与えてくださった廣瀬会長のご厚意に深く感謝いたします。高知大学のますますの発展をお祈りいたします。

《会員から》

病院紹介 高知で産婦人科医しませんか？

高知県・高知市病院企業団立高知医療センター産婦人科
高知医科大学第6期（平成元年）卒 林 和俊

平成20年から大学勤務を離れ現在の高知医療センター産婦人科に勤務しております。当院は平成17年に高知県立中央病院と高知市立市民病院が統合、開院し現在8年目を迎えています。病院PFIの導入、赤字経営や初代病院長の贈収賄などで記憶のある方もおいでると思いますが、今や武田明雄先生（高知大学麻酔科で勤務されていたこともあります）が3代目病院長で、平成22年度からは企業団直営方式となり、経営の改善が図られています。

当院は総合周産期母子医療センター、救急救命センター、循環器病センター、がんセンター、地域医療センター、こころのサポートセンターの6つのセンター機能を有する病院です。勤務する医師は高知大学出身者より圧倒的に岡山大学、徳島大学など他県の先生方が多く、産婦人科では我々高知大学（3名）と徳島大学（4名）の医師が協力しあって運営しています。

研修医の皆さんの中には高知では症例数が少ないことを心配して卒後、高知を去る方がいると聞きます。研修医ひとり当たりどれくらいの症例数を期待されているのか私はわかりませんが、当院の症例数の概算をお示しますと分娩数740（うち帝王切開270）、婦人科手術380（うち腹腔鏡手術100）に加えて体外受精、顕微授精など生殖医療も実施しており十分な症例数があると思っております。高知県全体の分娩数は減少傾向にありますが、最近の生殖医療の進歩と晩婚化を背景にハイリスク妊娠が増加していることで、益々当院の役割は高まっており、高知大学病院との強い連携のもと高知県周産期医療の体制を維持するよう努めております。また、婦人科に関しても症例によっては腹腔鏡手術を選択しておりますし、悪性腫瘍手術も多く、化学療法、放射線療法も実施しております。

現在の当院産婦人科医師の平均年齢は47歳。明るく元気で働いていますが、次世代に自分たちが修得してきた医療技術や経験を引き継ぐことも考えたい年齢です。全国にいる高知大学出身の産婦人科医師の皆さん、また将来産婦人科を考えている学生の皆さん、気が向いたら当院に見学だけでもおいでてみませんか。いつでもwelcomeですよ。どうか高知のことを忘れないでくださいね。

《会員から》

これまでを振り返って

高知生協病院

高知医科大学第7期（平成2年）卒 川村 貴範

早いもので、私が高知医科大学を卒業して23年がたとうとしています。生まれも出身高校も高知で、大学も高知、卒業後もほとんどを高知で過ごしました。もちろん、高校時代に県外に出たいという気持ちがなかった訳ではありません。しかし、色々考えた結果、高知医科大学を受験することとなり、なんとか合格することができました。

大学では、陸上部に入り毎日のようにグラウンドをひたすら走っていました。2年の冬には、解剖実習が終わった後、暗闇の中トラックを走ったこともありました。この時には、近所のおじさんランナー（今の自分よりずっと若かったはずですが・・・）も走りに来ていて思わず張り合ったこともありました。徐々に陸上部の成績も上がり、一番の思い出は5年の西医体です。本来は400mリレーで入賞を目指していたのですが、まさかの予選敗退。雪辱を期して挑んだ翌日の1600mリレーで見事3位入賞したのです。大学生活での最高の思い出です。陸上競技はよく個人競技と言われますが、リレーは団体競技です。個人の成績よりもこちらの方がずっと嬉しく思いました。

そんなこんなで、厳しい卒業試験、国家試験を無事乗り越え医師として働くこととなりました。本当に早いものです。初期研修では、色々かつらい思いをしつつも、外科医を目指して頑張ることを決め、今、外科医として仕事をしています。

そして、働きながら思うことは、高知県の医療のために微力ながら何かしていこう、と言うことです。ですから、これからの高知県の医療の発展のためにも高知大学医学部の卒業生の中から少しでも多くの人に高知に残って、あるいは研修に外に出てもいずれは高知

に帰ってきて、多くの医師の仲間と共に頑張って欲しいと思います。

自分の医師人生も知らぬ間に半分が過ぎました。しかし、まだまだ学ぶことは多くあります。落ちていく体力と相談しつつ、無理のないようにこれからの医師としての時間を過ごしていきたいと思っています。



《会員から》

旅芸人生活

菜の花診療所

高知医科大学第7期（平成2年）卒 北村 ゆり

「池田先生（池田久男元学長、当時神経精神医学教室教授）のご紹介で・・・」という認知症に関する講演依頼の電話が高知県T市の保健課からあったのは、医師になって1年目の終わり頃のことでした。常々地域の啓蒙活動も医師の仕事、と言われていましたので、自信のないままに講演依頼を受諾し、慌ててオーベンにどうしたら講演ができるのか尋ねました。オーベンによると、講演のストーリーが決まったら講演時間分の読み原稿を作り、それを一度読んでカセットテープ（今ならボイスレコーダーですが）に録音、それを自分で聴いてみて原稿を修正、納得いく原稿ができたらそれを暗記する、というものでした。自分の録音した声を聞くことは何とも言えず恥ずかしく、最大の難関でしたが、何とか頑張ったことを覚えています。

以後県内を中心に「痴呆の話」とか、「認知症について」とか、地道に講演してきましたが、平成23年認知症治療薬の新薬が3剤一挙に発売されたことで、状況が一変してしまいました。認知症関連の講演会が激増、元々認知症を専門領域とする医師は患者数に対して非常に少ないため、田舎で診療所を開業する私にまで講演のお鉢が回ってきました。頼まれるままに講演をしてまわった結果、平成24年は70回以上講演をすることになり、旅芸人気分を味わうことになりました。北海道から宮崎まで、あちこちで「それは土佐弁ですか？」と言われつつ、講演をしています。

「講演なんて大変」と思われる方もあるでしょうが、講演をすることであちこちの先生と話すことができ、色々な考えを聞くことができますし、自分の臨床的な体験や考えに「そうそう」と同意して下さる方に出会うことで臨床の自信にもつながり、忙しいながらも楽しい日々となっています。皆さんの元にもお邪魔することがあるかもしれませんが、その時にはよろしく願いいたします。

《会員から》

みなみの風診療所

高知医科大学第8期(平成3年)卒 今井 稔也



当院は2009年6月1日に新規開設した無床診療所である。場所は高知駅の東側徒歩1分の所に位置している為、車で来院される方の他、汽車やバスを利用して来院しやすく利便性に優れている。医療法人南の風、みなみの風診療所という名称は、東京を離れ高知に戻り、再び南の国、高知から新しい風を吹かせたいという思いから、このように命名した。診療科目は、内科、リハビリテーション科のみの標榜であるが、プライマリ・ケアとリハビリテーションを専門として診療してきた事もあり、対象は小児からお年寄りまで老若男女を問わず診療しており、内科的疾患から、外科的疾患に至るまで、疾患によらず、幅広く診療している。また障害者を診療するリハビリ科である事より、通院のみならず、在宅への訪問診療も積極的に行ない、かつ訪問リハビリや通所リハビリといった介護保険サービスも対応している。在宅医療は、障害の診療のみならず、全身管理はもとより、各種医療処置を必要とするカテーテル類の交換や呼吸器等の管理、末期癌の疼痛管理などにも対応している。外来は月曜から土曜の午前8時45分から12時半までと、火・木・金曜の午後は3時から夜8時、月曜も夕方5時から夜8時まで行い、検査機器類も充実し、急性及び慢性疾患の診断・治療に十分に対応している。昼休みと水曜、土曜の午後の時間に、訪問診療を行なっており、連日の在宅医療に対応し、また24時間連携の在宅療養支援診療所としても機能している。通所リハビリは個別性を重視し、選択メニューも多く、自身にしっかりと参加していただくリハビリを提供している。外来リハビリ、訪問リハビリもリハスタッフ3名で集中的なりハビリを行い、機能面の改善と並行してADLの改善にも注視し、目標を設定してリハビリを行うようにしている。また身体障害者手帳指定医及び義肢装具適合判定医であり、障害者手帳の作成や装具・義肢の作成、障害年金の診断書の作成なども行なっている。総勢17名でスクラムを組み、一層充実した地域医療サービスを提供していく所存である。



《会員から》

近況報告

医療法人つくし会南国病院

高知医科大学第 8 期 (平成 3 年) 卒 中澤 宏之



私は平成 3 年 3 月に卒業後神経精神医学教室に入局、大学院終了後、2 年間カナダのブリティッシュコロンビア大学に留学、神経科学の基礎研究（神経培養細胞を用いたカルシウムイメージング）に従事し、帰国後は大学病院勤務後、国立療養所東高知病院で神経内科と精神科の臨床を行い、平成 12 年 10 月に父の病院である医療法人つくし会南国病院に着任しました。当院では神経内科専門医として主に神経内科の臨床と研究に従事し、平成 19 年 4 月からは病院長として病院運営・管理の仕事に奮闘しています。

医療法人つくし会は神経内科、精神科、内科、消化器内科、リハビリテーション科、放射線科を標榜する 162 床の南国病院と、訪問看護ステーションおおそね、通所リハビリ施設、精神科デイケア、精神科作業療法施設より構成される在宅支援部門としての在宅医療支援センターを運営しています。神経内科では主として神経変性疾患の診療を神経内科専門医二人体制で行ない、46 床の特殊疾患病棟と 56 床の医療療養病棟で在宅療養が困難な神経難病の入院治療を提供しています。精神科は 2 人の精神科医で精神疾患一般の診療を行ない 60 床の精神一般病棟にて急性期の精神疾患を治療し、精神科デイケアや訪問看護との連携を行うことで社会復帰の促進を図っています。内科・消化器内科では内視鏡検査、嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査を実施、神経・精神疾患の身体合併症管理に大きく貢献できる様になりました。

また医師会活動としては、平成 20 年度から高知県医師会常任理事、平成 24 年度から土佐長岡郡医師会会長として微力ながら地域医療の充実をめざし頑張っています。県医師会での会務分担は高齢者福祉、勤務医問題、地域医療ですが、県行政や国政への働きかけも多く、常任理事としての発言力の大きさ、責任の重さを日々感じています。

高知県は民間病院が多くそれが地域医療を支えてきた歴史がありますが、昨今地方での医師不足は深刻になっています。医師確保が困難な民間病院の医療の質を維持するためには同窓生の皆様が高知県に残って下さり地域で活躍して頂くことが必要です。当院を含め県内の医療機関が活性化できるよう皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

医療法人つくし会南国病院

<http://www.nankoku-hp.or.jp>

TEL 088-864-3137

《第4回同窓会研究助成金による研究報告》

嫌色素細胞性腎癌・オンコサイトーマ様亜型の同定

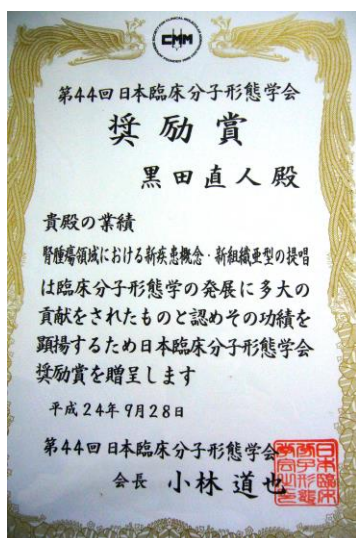
高知赤十字病院・病理診断科部

高知医科大学第7期（平成2年）卒 黒田 直人

このたび上記助成金により、御陰様で腎腫瘍の新しい組織亜型を同定するに至りました。高知大学同窓会の皆様方にここに感謝を申し上げ、その内容について御報告したいと思っております。

この研究は京都綾部市立病院・臨床検査科病理の山口直則技師、国立病院機構高知病院・泌尿器科の笠原高太郎先生、同臨床検査科病理の成瀬桂史先生、北海道大学病院・病理部の山田洋介先生、畑中佳奈子先生、同泌尿器科の篠原信雄先生、横浜市立大学・分子病理学部門の長嶋洋治先生、慶応大学病院・病理診断部の三上修治先生、同泌尿器科の大家基嗣先生、富山大学・病態病理の濱島丈先生、チェコの Charles University in Prague, Faculty of Medicine in Pilsen の Dr. Michal Michal および Dr. Ondrej Hes との共同研究によるものです。これまでオンコサイトーマと呼ばれる良性腫瘍から形態の類似する嫌色素性腎細胞癌のオンコサイトーマ様亜型を同定しました。特徴としては通常の光学顕

微鏡所見では好酸性の細胞質を有し、核は円形で中心部に位置し、核にしわがなく、核周囲に明るい領域を有しないという、形態学的にオンコサイトーマに非常に類似しますが、管状増殖を主体とし、免疫染色では サイトケラチン7に瀰漫性に陽性を示します。また、FISH での染色体解析では多くの染色体が欠失するなど、免疫染色と染色体レベルでは嫌色素性腎細胞癌の特徴を示すというものです。これまで良性とされてきた腫瘍から新しく悪性腫瘍の一群を同定しましたので、臨床的および病理学的にインパクトが非常に高いものと思われます。この研究成果は Medical Molecular Morphology の 2013;46(1)



に掲載予定で、現在 online publication となっていますが、今後の WHO 分類にも影響を与えていくことを切に望んでおります。

本研究を筆頭にして2012年度には高知で開催された第44回日本臨床分子形態学会（高知大学・小林道也会長）で学会奨励賞、名古屋で開催された第58回日本病理学会秋季特別総会（藤田保健衛生大学・黒田誠会長）では学術研究賞（A 演説）を受賞させていただきました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

《事務局から》

同窓会総会・講演会および懇親会ご出欠お返事をお願い

同窓会総会・講演会および懇親会へのご出欠のお返事を FAX（088-866-0034）またはメール（dosokaij@kochi-u.ac.jp）にて平成25年7月8日（月）までにご連絡ください。

日 時 : 平成25年7月27日（土）午後5時30分～

場 所 : ホテル日航高知旭ロイヤル

参加費 : 5,000円

住所連絡のお願い

住所変更がございましたら FAX またはメールにてご連絡ください。

年々、連絡のとれない方が増えています。今回の発送物が届いていない方がお知り合いで居られましたら事務局にお知らせいただくようお願いいたします。

会費納入のお願い

未納の方は下記口座への納入をお願いします。

終身会費 5万円

会費納入状況のお問い合わせは事務局まで。

【会費振込口座】

郵便局からのお振込み

口座番号 : 01680-2-130874

高知大学医学部医学科同窓会

他の金融機関からのお振込み

店名 : 一六九店 (イチロクキュウ店)

預金種目 : 当座

口座番号 : 0130874

高知大学医学部医学科同窓会

医師賠償保険団体加入のお知らせ

医学科同窓会で勤務医師賠償責任保険を団体扱いで損保ジャパンと契約しています。

現在、約 200 名の加入者があり、保険料について団体割引 10% (平成 24 年度) の適用を受けております。

詳細につきましては下記取扱店までご連絡ください。

契約型	対人 1 事故につき	対人 1 年間につき	保険料 (団体割引 10%)
100 型	10,000 万円	30,000 万円	45,747 円
150 型	15,000 万円	45,000 万円	51,975 円
200 型	20,000 万円	60,000 万円	59,418 円

【取扱代理店】

はらだ保険企画 〒780-0063 高知市昭和町 10 番 5 号

TEL : 088-823-7152 携帯 : 090-1007-8339

E-mail : daiwa-si@dion.ne.jp 担当 : 原田

【事務局連絡先】

高知大学医学部同窓会

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

TEL/FAX : 088-866-0034

dosokaij@kochi-u.ac.jp<http://www.kochi-ms.jp>